

「数値予報研究開発プラットフォーム」の設置について

1 経緯

部外研究者へ数値予報モデルを提供することは、研究成果の還元を求めることにより新たな知見を得ることができ、当庁におけるモデル開発にとって大きなメリットです。このことから、モデル技術開発推進本部会では、平成12年度より大学・国立試験研究機関等の部外利用者に数値予報モデルを積極的に貸与（提供）をすることとしました。

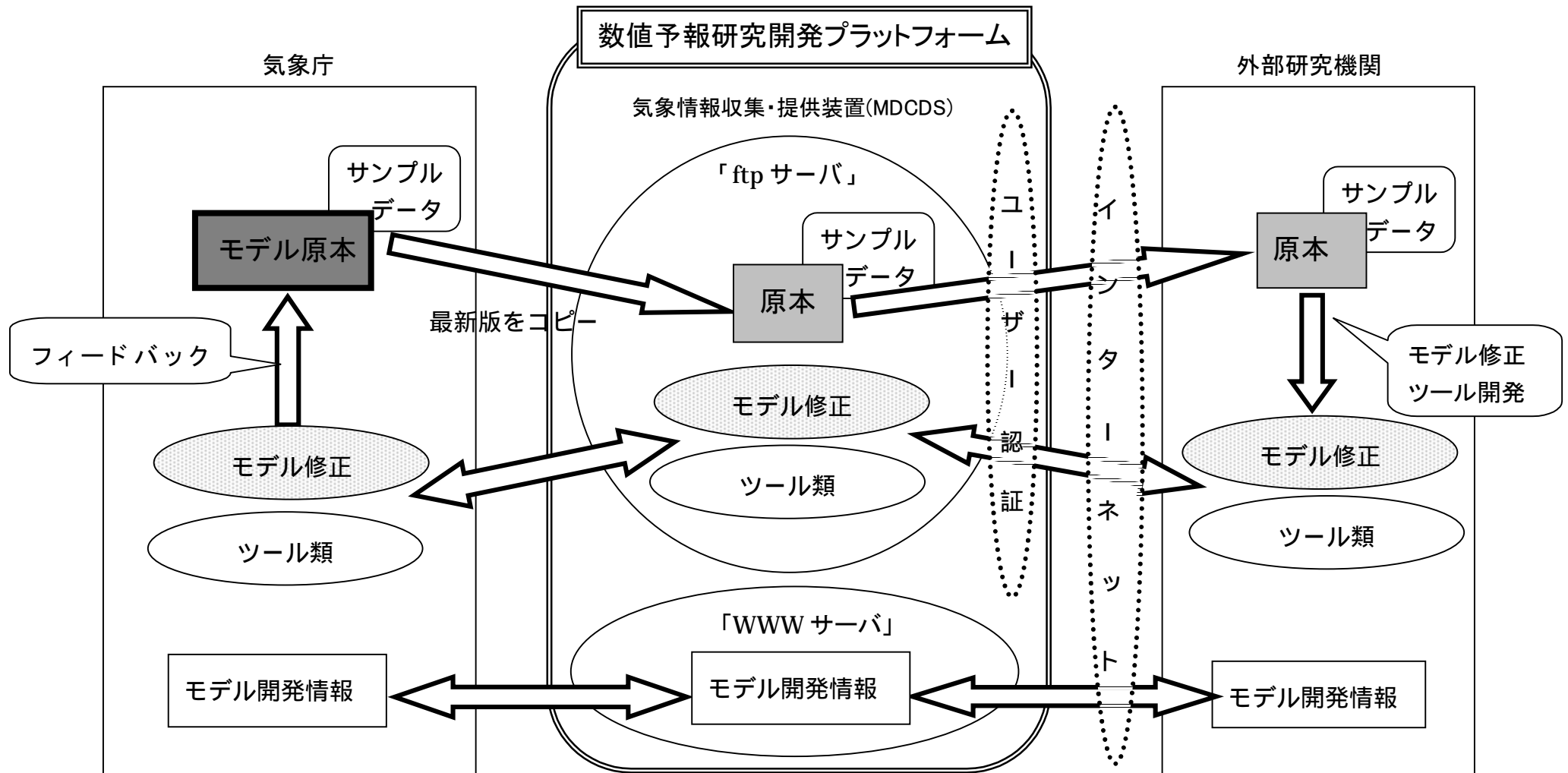
数値予報モデルの提供は更新の都度 CD-ROM によりオフラインの形態で行っています。しかし、利用者数の増加があり、また、多くのユーザーによる知見の増加により更新の頻度が増加しています。

2 「数値予報研究開発プラットフォーム」の設置

モデル利用者との開発情報・成果の交換の実効性を高め、かつ、モデル利用者のモデル更新への追従を迅速・確実にすることを目的として当庁に「数値予報研究開発プラットフォーム」を設置します。このような役割を果たす本プラットフォームは、開発情報の効率のよい交換の基盤となり、当庁のモデル開発戦略上、有益です。

本プラットフォームは、気象情報収集・提供装置のファイルサーバを活用して設置します。気象庁は数値予報モデルの最新のソースコードとサンプルデータ等を掲載し、モデル提供を認められた部外利用者は改良版モデルのソースコードや独自開発ツール等を掲載し共有します。

「数値予報研究開発プラットフォーム」の設置について



従来

モデルは CD-ROM によるオフライン提供。メールや報告書等により利用者と情報交換を行い、必要に応じて、還元された利用者の研究の成果を取り込む。

数値予報研究開発プラットフォーム

モデル更新が頻繁に行われる場合でも追従が容易となり、モデル利用者からの開発情報・各種開発成果の集約・共有が効率化する。